



「写真の町」東川町長 松岡 市郎

写真甲子園映画づくりに向かって

新年あけましておめでと
うございます。

今から10年ほど前、「人口など増えるはずがない」という声がありました。しかし10数年が経過し、先人の方々によってしっかりとした基盤を築かれ、住民一人ひとりがそれぞれの分野で魅力を創造してくれました。その成果が今日、町の人口微増に繋がっていると思います。

「東川町」の知名度は相
当上がってきております。
数年前、「東川町です」と

名刺を差し出すと「どこで

すか？」などとよく聞かれたものです。しかし、今では「写真や写真甲子園など有名な町ですね」という言葉が返ってきます。テレビ、新聞、雑誌、団体機関紙などでさまざまな取り組みを取り上げてくれていることも大きく影響しています。特に人々の視覚や聴覚に響く宣伝の効果は計り知れないものがあります。地方自治に係わる大学の先生や国の職員にも「東川町」の名前は確実に浸透してい

ると感じます。

「写真の町」文化事業の知名度、持続力が魅力の一つとなって大きな力を生み出しています。昨年、内閣府に地方創生交付金を申請し、外部審査によって事業採択になりました。「写真文化首都創生事業」と「写真文化」を大きく打ち出したもので、「写真の町」東川町の知名度が動いたものと分析しています。

この知名度をさらに生かし広めようと、今年は東川町を中心舞台として悲願で

ありました写真甲子園の映画づくりがいよいよ始まります。監督は、「ぼくらの七日間戦争」(1988年)、「ほたるの里」(2004年)、「早咲きの花」(2006年)などのメガホンを取った札幌出身の菅原浩志さん。「住民の皆さんと感動できる映画づくりをしたい」と昨年12月から東川町内に滞在して脚本づくりに着手しています。東川発、北海道発の映画づくりに向けて皆さまの温かいご支援をお願いいたします。

東川町に「来て、住んで、滞在して最高」と言え、また言われるような町づくりを一步前進させたいものです。皆さまにとって最良の1年でありますようにご祈念申し上げます。



東川町議会 議長 高橋 昭典

年頭のご挨拶

新年あけましておめでと
うございます。

町民の皆様と東川町が明るく、新春を迎えるにあたり、町民の皆様のご多幸とご健勝をお喜び申し上げますとともに、日頃議会にお寄せ頂いていますご支援とご理解に感謝を申し上げます。

本年3月の初議会において、議員各位のご支持を頂き議長に就任しての新年を迎え、議会の権能と責任を果たすため町の意味を決定

する重大な責務を担い、また、議会の使命を達成できるように努力を重ね、民意を町政に反映する議会における責任の重さを痛感します。

昨年は、「まち・ひと・しごと」創生総合戦略を策定し、地方創生に向けた基本的な考え方や目標、具体的な施策をまとめました。全国的に人口減少が進んでいる中、本町においては緩やかな増加しています。が、今後は人口減少に転じる想定をし、従来の取り組

みを継続しつつも新たな対策が欠かせません。東川町の将来像を見据え、議会としても実現に向け着実な地域づくりに議論を深めます。

国は、国防・TPP・エネルギーの重要課題は、国民的議論が二分して合意形成がされない環境でありながら政府は、国家安全保障政策を見直し、戦後70年を経た日本のかたちを大きく変える時代に入りました。国際政治・経済情勢の激変に影響され、国内政治にお

いても緊張と不安定要因が高まることが懸念されます。現状の問題を抱えながらも地方自治の推進により町民の広範な参加を得ながら、町民の期待と批判に誠実に応える責任が議会にあると考えます。更には地方分権を時代の潮流と踏まえ、活発な議論を通じて議会審議の一層の活性化に取り組み、議決機関としての議会の責務を着実に果たしてまいります。

結びに、皆様にとって、限りない繁栄と本年が輝かしい飛躍の年になるよう心からご祈念申し上げます。年頭のご挨拶とします。